二十二日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵　税　金十五錢
□一　部　賣、金　三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜　報　欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓増
□電話（平）　七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
發行所　福島縣平市田町十六番地　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英

政治とは勢である世の中の勢を洞察して方向を與へ衆を一段と高い目標に向つて引張てゆく所に政治がある（竹内讓二）

閼伽井嵐

磐城魂とは（下）

高木稲水

更らに是を歴史に就いて見るに磐城氏鳥居氏内藤氏安藤氏等歴代の藩公に鷹山公西山公樂翁公の如き特にすぐれた藩主があつたか。百姓騒動の話や丹後澤傳說の如きは決して自慢になる話ではない

然らば先輩に後世の人をして感奮興起せしめるやうな偉人傑士があつたか、磐城人物志を古今に通じて調べて見ても稀である。天上人、原坦山、大越中佐位のもので、それも他府縣に行つて中等學校の生徒に尋ねたら「知りません」と答へられる程度の人物である、現代の人物また然りである。

我等は磐城の風土歴史を検討し來つて「磐城魂」と名づけて以て青少年の心を鼓舞するに足るべき資料を得るに苦しむのである。諺に「氏より育ち」といつてゐる。我等は遺憾ながら誇るべきすぐれた祖先を持つてゐるとはいへぬ。誇るべき輝かしき歴史があるともいへぬ。即ち立派な「氏」に育つた貴公子とはいへない。されば我等はこゝに緊褌一番、新時代にふさはしい人物を作りあげるために全力を傾注すべきである即ち「育」ちに全力をあぐべきである。天下は廻り持ちである各地方の人々はそれ〴〵彼等の仕事を終へた。明治維新以來或は廟堂に立ち或は實業界或は學界軍部といふやうに人物を出して日本國家興隆の爲に盡して來たのである。彼等の任務は終了したのである新時代は磐城人が擔當する義務がある。貧乏人には金持になれる望が多く地位の低い者は高くなる可能性が多い。皇國のためにつくすべき磐城の輝かしい歴史の頁は今日以後にありといへる。我等の使命は大きい。（未完）

興亞の礎石　内原訓練所（三）

藤田如水

少年のことだ、始めて父母の膝下を離れ家郷を後にして環境の激變に淡い望郷の動くことも想像出來る。ホームシツクは如何ですかと疊み掛けると、厭懇病（ト云フ）に襲はれるもの約五%、然しそれとて極めて輕微で早きは十日位遲くも廿日位で免疫性になると確言した。

食事に關しては節米等いふ何等の規定がないばかりでなく、午後二時には日毎にきまつた間食が出る、中隊長の特別など厚意で一行は所生と全じ晝食を味覺する光榮を得たが　量も豐富だし、粹な榮養料理まで添へてあつたこの見致からは此處は全く樂土であり時局離れした別社會である、

所生の態度言語動作は室の内外を問はず輕快で快活でキビ〱して居る。これが入所日なほ淺い少年隊員とは思はれない位、型にはまつて居り板について居る。恰も陸軍の幼年學校生徒に接する實感だ。頼もしい限りである。

時局を強く認識し國策を深く理解して雄々しくも義勇軍を送り出した大方父兄の各位に對して所生のその日課の一斑を報告しよう

午前五時三十分　起床……洗面
午前六時　點呼……禮拜……日本体操
食前作業（駈歩程度）
午前七時　朝食……休憩
午前八時　十一時三十分　訓練業作…敎練…武道…劍道…同憩…抜根
十二時　晝食…休憩
午後一時三十分　午後ノ作業始メ
三時　間食
四時三十分　作業止メ…點呼
五時　夕食
六時　入浴
七時　學科單班…詩吟…琵琶
八時　就寢準備
八時二十分　消燈

所内生活の一切はラツパと太鼓の合圖○中隊總員○名の軍隊組織をもつた一大家族主義であり大集團生活であるかくして鐵石の意志と統制と規律ある團体的訓練を錬成されるのだ

初等科一、二、三年の『自然の觀察』（一）

（四倉）鈴木

去る四月一日にいよ〱國民學校が生れまして初等科一、二、三年も理科のお勉強をなす事になりました。小さな子供達が池の周圍に集つてチョロ〱するお玉じやくしに見入つたり金魚に餌をやつたり、或は鷄に菜葉をやつたりするやさしい風景が見られます。この「自然の觀察」といふのは、理科の授業に用ふる本の名で修身の本の「ヨイコドモ」といふやうなものであります。

他の本と異つてゐるところは、自然の觀察といふ兒童用の本はなくて教師用の本があるだけであります。この「自然の觀察」といふのは國民學校の初等一、二三年に敎へる理科の中味がどんなものであるかを現はしてゐるのであります。以前に於ては四年から始めて理科が出て來たのでありまして、三年以下には全然理科を教へてゐなかつたのであります、ところが時局重大の折柄國家は科學教育の振興に力を用ふるやうになり、高度國防國家を建設するためにはどうしても國民の科學教育を建直し幼少の頃からしつかり基礎づけて行かなければならないとなされ、その結果一年生から理科のお勉強をなさしむる事となりました。この重大な使命をになつて、こゝに生れ出た理數科理科の教科書「自然の觀察」とはどんなものであるか、又どんな事を教へるのかといふ事について簡單にお話致して見たいと思ひます「自然の觀察」は初等一、二、三年用を文部省がつくつてくれるのであるが、昭和十六年四月に發行するのはこの中一、二年用各一册でありまして、三年用は明年四月に四年用と共に發行することになつてゐます。それで今年度の三年用は各自の學校で作る事になつてゐます。

川柳

（平）柴田長面子

初島田そつと重たくふれてみる
ふるさとの香を惜しみつゝ始發出る
節米と別に興亞の子の育ち
汗つぽく修學旅行疲れてる
五月晴れ鯉が泳いで日本中
五月晴れ伸びる手足が跳ね躍り
大陸の友が増えてくありがたさ

「訓盲院生ノ一日」

馬目智夫

海だ 海だ つまづいて轉がツた生徒
潮風に向ツて深呼吸してゐる
海邊 道のない海邊 大股に
　歩いて行く生徒の一日
濱相撲 勝負も知らずに
手を叩いてゐる人 輪をつくツて
やにはに馳けていつて 波のしぶきに
はねかへつた男生徒 眞白の齒
近くにある防風 敎へてやらう
手さぐりでさがす女生徒二人

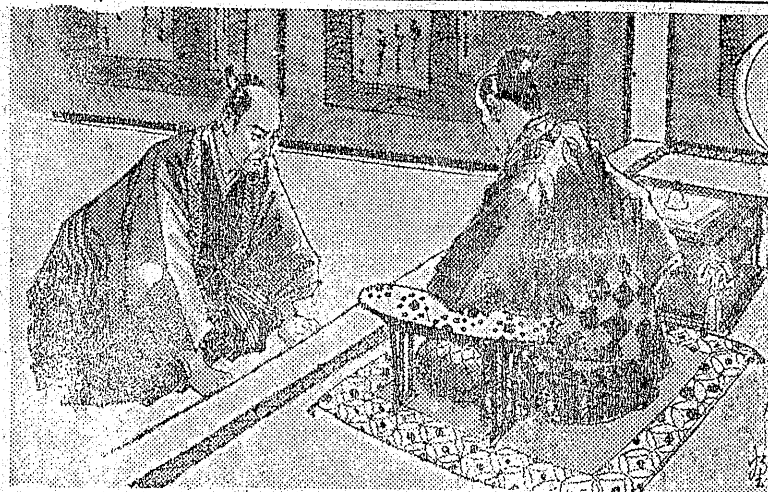
異說赤穗浪士（いせつあかほらうし）（202）

桃川若燕
（講）城木喬

申開き

他の三家同様伯耆守から十人を受け取ると網乗物に乗せ、麻布日ケ窪の上屋敷に送りお長屋に入れたが、その扱方は囚人同様、少しも忠義の志を持つた義士の待遇ではない。座敷なども牢屋格子こそないが、往來の方を向いた窓は殘らず板を打ちつけ外方から見えないやうにして、只押し籠めて居ればよいと云つた扱方、然るに老中を始め諸家が段々義士一統の身の上に同情して來たので漸く覺り、今までの一汁一菜を更めて二汁五菜とした

又水野監物家も最初は毛利家同様の扱ひであつたが、これは監物殿直々に義士一同に對面した上待遇を改めた



さて、元祿十六年正月廿四日、月番老中秋本但馬守よりお達しがあり、大石以下重立つた者四人を但馬守役宅に召寄せ、敵討の條々お調べと云ふ事になるこれを聞いて心痛したのは細川越中守、これは大石一統を助命しようといふ者の急先鋒、萬一にも調べ如何で助命が叶はぬとあつては大變と心を痛めてゐる折、國表より家老の澤村才八郎が出府して來たので、澤村才八郎を差添へと云ふ事にして共々但馬守役宅に赴かせる、この澤村才八郎といふ人物は頗るの變人で一萬千石三人扶持と云ふ半端な知行をとつてゐる、それは何故かと云ふに才八郎は最初三人扶持の足輕で細川家に仕へた。それから幾度かの勳功に依つて次第々々に出世したが何處までも三人扶持の時代を忘れぬ爲千石を取つても千石三人扶持、一萬石になつても別に三人扶持を貰つて今日では一萬千石三人扶持、

『恐れ乍ら手前差添として罷り出ましてからは御當家の瑕瑾にならざるやう取計らひます

『才八郎、後の世の鑑みともなるべき人々の事なれば万事澁らさず承はつて參れ』

『委細畏り奉ります』

愈々當日細川家は大石内藏之助良雄、小野寺十内秀和、吉田忠左衛門兼亮、片岡源吾右衛門高房の四人澤村才八郎を始め留守居一人物頭二人、徒士十人、足輕二十人尤も四人は駕で行く。

又久松隱岐守お預りのうちからは中村勘助堀部安兵衛の兩人、これも差添人やその他がついて秋元但馬守御役屋敷へ着く。一同が集まつたとは云へ、各自の間には白張りのお屏風を立てゝ面會はさせない、その内に時刻が來たので、お目付水野小左衛門が、

『細川越中守家來、當日差添澤村才八郎』

と呼び立てる。ときに才八郎罷り出で

『拙者事才八郎にございます』

『ウム、最早御重役お席も定まつたれば總代内藏之助儀拙者へ相渡し其方は相待つやう』

『その儀は相成りませぬ』

『何んでならん』

『主人越中守申付けに大切なる罪人内藏之助ゆゑ、萬事心を用ゐて差添へ參れと申付けられましたが、お目付水野小左衛門殿に渡せとは主人より承はりませんさればお目付たりともお渡し申す譯には參りません。一旦内藏之助を同道致し歸邸の上主人差圖を承知いたしたるその上連れ罷り出でますれ暫ばらくの御猶豫を願ひたく……』

『コレ〱それは尤もな事ではあるが拙者内藏之助を受け取ると雖も差支へない筈、今より細川越中守邸へ引取り、再び引き連れ參つては今日の間に合ふまい、刻限に限りあれば左様な事は差し許せぬ……』

平市大町　電話七九番
内臓外科
整形外科
内木外科醫院
醫學博士　内木宗八
▽入院隨時△

本場特選
スッポン
肺、肋膜、心臓胃腸の弱い方に血となり肉となる
生スッポン
生血・生膽
平市六丁目本町通り
岡崎スッポン店
養龜所　平市正月町一番地

小名濱町小學校前　電四五
産婦人科
外科一般
花柳病科
黒澤醫院
醫學士　黒澤廣
【見習看護婦募集】

●中古純綿●純毛掘出し物地縞●正紺絣●紺織色、紋平●メリヤス●チャンバーヅボン●オーバー●布團類●作業服●洋服類
産業戰士必需品豊富荷揃
平市二丁目角
伊關呉服店
電話三三三番

外科一般、内臓外科
性病科、肛門病科
木村外科醫院
木村淳
平市南町（警察署通り角）
電話三〇九番
▽入院應需△

梅雨期せまる
晴雨傘とレーンコート
通學服マント　六、五〇ヨリ
大人マント　一五、二五〃
本絹レーンコート　二〇、〇〇〃
婦人用オイルシルクコート　一五、六〇〃
紳士用オイルシルクコート　一三、〇〇〃
平市　大黒屋

耳鼻咽喉科專門
入院隨意
病室完備
大和田醫院
平市南町　電話一七〇番

▲男女車掌募集
平市四丁目
鈴木自動車部
電話二一七番

外科　整形　胃腸　性病
内臓外科　脳脊髓病科
整形外科　レントゲン科　理學療法科
内胃腸病科　肛門病科
花柳病科　皮膚病科　泌尿器科
醫學博士　松村亨
醫學得業士　松村鐵郎
平市南町　電一〇七
松村醫院

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市驛前中央通り

大衆向きの小口保險
三百圓より大口契約も
好條件で外交員募る
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店　比佐政種

割烹　はまや
小名濱公園内
電話百廿番

平病院（元共濟病院跡）
電話四一番
院主院長　醫學博士　鈴木定藏
内科、小兒科
レントゲン科
物理的療法科
内臓一般外科
皮膚泌尿器科
副院長　高橋俊幸
藥劑部長　吉本幸平
毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます
急患は此の限りにあらず

氷の御用は
電話二一三番
平市四丁一
魚問屋へ

日本平命生代理店
鰹節製造販賣
志賀盛榮商店

專門藥　こしけ　りん病
岩里別府淋藥　一週間分　參圓（黑）五圓（赤）
痛みある病、熱ある病に…
岩里別府散　七包入　五十錢　十五包入　壹圓
製藥本舖　別府市岩里天然堂
代理店　阿康藥局
平市古鍛冶町　電話四四
振替東京三〇〇五六番

立食
天婦羅
始めました
おでん
もつ焼
一平
小名濱町

磐城セメント
小賣指定
大谷石も賣始めました
野内商會
平市南町
電話二一番

產科、婦人科
醫學博士　五十嵐雄二
病室增築、手術室完備
平市新川町　電三六九

食事　喫茶　酒場
サロン
營業時間
○開店…午前十時より
○御飯は夜九時までに御願致します
○閉店…午後十一時限り
平市銀座街　電話五九三番

小名濱唯一の
味の店
おでん
小料理
御會食御商談に御利用を……
味の店　寶來

醗酵する際に死滅し易い酵母と異り・ミクローゼの主成分である日本固有のビルツは・生存力が極めて强く・服用後・胃腸内でどんどん増殖し・强力な消化酵素を産生する特徴を有して居ります。——故に・効果は持續的・且つ强力であります。何よりの證據は・食慾が増し・快い便通が得られることです。
郵劵十錢で・五日分六十錢の試服藥を急送す
星チエーンストア支部
全國各地藥店に有り
東京・五反田　星製藥株式會社
M9
ミクローゼ

御親閲の光榮に輝く
感激の一瞬！
鄉土青年部隊福島で解散

青年訓練實施十五周年記念全國青年學校生徒御親閲式は待ちに待つた今二十二日午前十時から宮城二重橋前廣場で擧行された、この御親閲を拜した本郡青年學徒代表の感激はいか程であつたらうか……咽喉も渇れんばかりの〃かしら―右ッ！〃青年學徒が無上の光榮に浴した一瞬！こみ上る愛國心は脈うつて興亞の礎を誓ひ、また畏くも十四年五月二十二日御下賜になつた勅語の『其ノ任實ニ繫リテ汝等青少年學徒ノ雙肩ニ在リ』のお諭を一層強くした事であらう…龍顏を拜した本郡代表は鄉土の學友にこの感激を分つ日を樂しみに一旦福島に向ひ、同地で解散それ〴〵歸鄉の途につく豫定である

青訓記念日
平地方青年學校の催し

青訓實施記念日の今二十二日平市内でもそれ〴〵次の如き催しがあつた

◇◇第一◇◇（平第一青年學）校では午前十時から同校庭に全生徒が集合、國旗掲揚、國歌齊唱、宮城遙拜、勅語奉讀

◇◇第二◇◇（平第二青年學）校は午前九時から記念式を擧げ式終了後校外發火演習を擧行農村青年の意氣を示し終つて赤白餅を敎職員學生に分けた

◇◇私立◇◇（片倉女子青年）では午後六時から糸姫達が集合、勅語奉讀式を擧げるが平鐵工組合青年學校では別段催しがない

なほこの外地方でもそれ〴〵計畫あつたが小名濱、四ツ倉は次の通り

◇◇小名濱◇◇（小名濱青）年學校では八時三十分武裝して校庭に集合、勅語奉讀に續いて閲兵分列式があつた

◇◇四ツ倉◇◇（午前十時）記念式を擧行續いて分列行進に移り午前中一ぱいは同校々庭で勤勞奉仕と敎練を行つた

昭和十年青年學校制度が設けられ義務制になつた譯です、今後は同學校を助長し主人、父兄の方々にも再認識を願つて努めて出席する樣に致したいものです、向ほ現在の平市第一青年學校の出席率は四百名の在籍に對し三百五十名の出席で第二校は在籍九十五名に出席が八十五名から九十名の好成績である

『夜間照明電氣で竹棒が銃代用』
十五年前語る柳沼氏

青年訓練所誕生してより滿十五年、その間青年學校に改稱され、更に准義務制となり今年度より本科一年から義務制と成つたもので時局の趨勢と共に同學校も益々重要視され、はからずも今回御親閲の光榮に浴したものである、元湯本青年學校長平市役所翼贊會主任柳沼書記に青年學校の回顧談を聞いてみる、

大正十五年青年訓練制度が設けられてより丁度十五年目です元は今の樣な設備はなく夜間に照明電氣を點けてやつたもので當初は指導書もなかつたため基礎訓練ばかりやつた所もある、併し鄉軍分會の指導員は非常に熱心でした勿論銃器はなく竹棒が銃代用の所もあつた、そんな狀態が續いてゐるうち

大敷網問題
小名、江名兩組合が協議

既報、小名濱町大敷網明年度經營者選定問題に付き昨二十一日午後一時より漁業組合樓上に委員會を開き審議したが、獨り小名濱漁業組合のみでは決定出來ず、江名漁業組合と兩持ちの關係上改めて今二十二日午後二時より縣水産試驗場に兩組合より銓衡委員を擧げ協議會を開き組合の態度を決定する事になつた 小名濱側委員水野政次郎、野崎貞行、田中權次郎、三代龜太郎、馬上喜一、外一名

因に從來大敷網地元權契約は場代金年何程とし場代金さへ支拂へば契約年限五ケ年間は、その人の權限で漁休するも勝手であつたが今日は時局下であり國策に副ふと云ふ見地から增産を叫ばれる時、實行力のある人利權扱を嚴禁する等が數へられてゐる

猫鳴山登山
廿五日決行

平山岳會の『猫鳴山』登山は雨のため延期してゐたが二十五日の日曜日に行ふことに決定した 今度の行程は三十二キロに亘り相當難コースなので女子や子供は特に自信のある健脚なもの以外は遠慮されたいと

前線慰問通信
☆✶☆✶☆✶【3】☆★☆★☆✶

野宿して汽車を待つ
悠長な支那民俗

興東丸にて

縣議　木村守江氏

汽車は午前八時上海の南京急行であるのに一時間前に停車場に行かねば乘車困難であると言ふ、急ぎ身仕度を整へて七時前に自動車を飛ばして停車場に向ふ、宿から五六分で停車場に近づけば話の如く支那人の群がある何事かわからぬ言葉を叫び合つて風呂敷包を持つた支那人が汽車に乘る爲めに待ちかまへてゐるのである。氣の早いのは八時の汽車に夜半の一時頃から來てゐる。人もあれば宵越をして待つ人もあると言ふ。甚しいのは二日位前から停車場附近に來て野宿をしながら悠然とかまへて三日目位に汽車に乘る人もあると言ふ、こんなことなら氣の短かい日本人なら立腹して徒歩で目的地迄行つてしまふ、然しそこが支那人である。風呂敷包に持つた夜具を被つて地邊にゴロ寢して平氣だ、食物もメリケン粉か唐黍の粉のやうなもので造つたパンのやうなものを路傍で食つて別に急ぎもしないで汽車に乘れる時の來る迄待つてゐる實に日本人から見れば不思議な存在である支那人の群衆の中を準軍屬として押分けて改札口を通り汽車に乘る、案の條既に汽車は滿員である。群がる支那人の中あと幾人乘れるか知れたヿである千人位は乘車出來ないヿであらう發車時間が來て最早滿員乘れないと言はれゝば怒りもしないで次の汽車を待つ、又乘れなければ又この次を待つ是が日本人であつたら大變だ、大騷動が起きてしまふ、先づ二三時間も待つて斷られたりしたら停車場をぶち壞す騷ぎを演ずることだらう。こんなに國民性が異ふものかと驚く

汽車は今事變で最も激戰であつた閘北を過ぎて快走する、兩側の破壞された家屋は今尙復興されずに慘狀を呈してゐるのが多い、この地は一方は停車場一方は共同租界となつてゐるので支那兵がこゝに陣取つて抗戰したのである。日本軍は國際信義を守りこの地を砲擊しなかつたので彼等はこれをよいことにしてこゝを安全地帶としてこゝから友軍を苦しめたのである。

その爲めに、どんなに日本軍が苦戰し、どんなに多くの友軍が戰死したり戰傷したりしたかを想ひ起す時おさへられない敵がい心起つて來る昆山蘇州に至るも半分破壞された家屋と友軍を苦しめたトーチカやクリークが無數にある、激戰を想起せしむるに充分である然し破壞された家は修繕されようともせずに放置されてある、野良は小麥、大麥、空豆などで一面青々としてゐる、菜種は花の盛りを終つて殆んど採取期に近づいてゐる、支那人は大人も子供も何處に戰爭があるのかを解せぬごとく悠々と鍬を取つて田畑を耕してゐるその所々に部隊の奮戰を語る戰歿者の墓標が立つて感謝の涙を催さしむる、蘇州に近づく頃には上海上陸以來初めて左一帶に横たはる山々が見える、一本の立樹も見られないが雜草のため全山青綠色に染つてゐる。常州に近づく、この邊が京漢線中にても最も裕福な地方である、堂々たる建屋が並ぶ、この町には一日に三十圓位の亞片を喫む人が三人あるとか、即ち一ケ月に九千圓の亞片を呑むわけである。拾圓位の亞片を喫ふ人に至つては數へきれない程であるとのことだ、斯樣に亞片に丈でもそれ程の金を費す。だからその裕福さ程度が想像出來る。

平署の科學
捜査陣强化
―堀江の寄附で寫眞施設完備―

平署の司法陣は經費難のため寫眞の施設が出來ず、科學的捜査に尠なからず不便を招いてゐた處堀江工業から三百圓指定寄附を受けるに至つた爲司法室寫眞囑託の白土喜伯氏も大喜びで直ちに暗室の新設や寫眞材料を豐富に揃へて捜査上に機能を發揮することになつた

初鰹漁
東日本丸が野島で豊漁

鰹を追うて沖合に出漁中であつた小名濱町第二東日本丸は野島沖二百五十浬の位置で鰹五百尾ピン長二十尾を漁獲して、この程三崎港に入港したが、これが本縣船の初鰹漁である

水試で語る

陽氣は謠向になつてきたし水温も良いから野島沖を中心に鰹漁も本格的になつて來るだらうと元氣の良い情報を洩らしてゐる

縣指導船
磐城丸
二、三日中に廻航

本縣指導船磐城丸は石の巻造船所で修理中であつたが完成し二三日中に小名濱港に廻航されて資材を用意し房州方面に餌を求め本月中に沖合に鰹を探究する事になつた

鰹漁水揚と
餌鰯
重油配給陳情

毎夏鰹漁期になれば叫ばれるのは餌鰮であり水揚港に餌鰮は不離の重大問題であり小名濱港では過去に於て餌鰮業者に補助金を出して助成した事もあつたが要は餌が近海に採れるかどうか、それには第一重油配給が問題となるので揚繰組合長三代龜太郎氏は縣に對し『鰹を本縣に水揚させるには餌鰮をイケる事である、それには重油の特別配給を縣として是非配慮して貰ひたい』と陳情してるが鰹群も本縣沖合に接近してくるので既に議論の域を過ぎ實現化を要望してゐる現狀である

無言の勇士
吉田中佐以下鄉土凱旋

支那大陸に赫々たる武勳を樹て散華した吉田平一中佐外百四十六勇士の遺骨は卅一日仙台に無言の凱旋をするがうち本郡關係は吉田中佐以下次の十六勇士である

△中佐吉田平一（內鄉）△少尉猪狩三千夫（赤井）△軍曹鵜沼久男（鹿島）△伍長鈴木定雄（豊間）△伍長西山曹（大野）△伍長佐藤喜代三郎（神谷）△伍長小松富士男（山田）△兵長山野勝也（上遠野）△兵長蛭田勇雄（上遠野）△兵長根本二美男（赤井）△兵長鈴木清司（小名濱）△兵長大平正夫（平）△曹長若松一郎（內鄉）△伍長永山光保（三坂）△兵長鈴木孟行（夏井）△兵長園部弘（鹿島）△兵長門島東（大浦）

平青壯年
分隊長指名
本隊結成式は六月一日

平市青壯年隊の各區分隊長はそれ〴〵銓衡を急いでゐたが今廿二日までに大体完了、青沼隊長宛報告があり隊長から直ちに指名、本隊の結成式は來月一日の興亞奉公日に行ふ豫定である

△第一區　川崎文治
△第二區　神谷辰夫
副（石島治三郎　白土長太郎）
△第三區　青天目源一郎
△第四區　室橋光
副（市井茂　新妻政太郎）
△第六區　中野勇雄
△第七區　柏原光太郎
△第八區　新妻春治
副（猪狩精治　關內榮助）
△第九區　瀧田豊
副（河又新一　大內近雄）
△第十區　藁谷喜多郎
△十一區　石川一治
△十二區　吉田祐三郎
副（高根澤政一　坂井清之助）
△十四區　大竹榮一
副　草野光司
△十五區　柴田武雄
△十六區　柴田定雄
△十七區　小野寺治雄
副（青木三郎　諏訪太郎）
△十八區　鈴木傳吉
△十九區　諸橋久四郎
△廿區　深谷亥之吉
△廿一區　藤波時康
△廿三區　吉田政夫
△廿四區　鈴木光四郎
副（加藤正傳　飯島正秋）
△廿五區　長峰鶴太郎
副（田野入直人　桑原徹）
△廿六區　上野光
副（久田隆美　鈴木勇）
△廿七區　鈴木良平
副　平田德治
△廿八區　內木宗八
副（藤倉武雄　清水英）
△廿九區　蓮葉正金
△卅區　福田藤一郎
△卅一區　鈴木隆
副（吉田富衛　佐藤義衛）
△卅二區　大和田保壽
△卅三區　鈴木惣五郎
副（松崎久四郎　阿部初彌）

疫痢期節來る
冷菓子や食べ過ぎに
母親達へ警告

うすら寒かつた天候不順も二十日頃から氣温もグンと上昇、二十日の最高氣温は二十四度五分ですつかり初夏氣分が溢れ街にはパナマ帽さへお目見得して冷菓子業者もボツ〳〵開業した 平市衛生課では毎年この季節に腸チフスエキリが發生してゐるので特にお子さんのある親御さんに次の如く注意してゐる『腸チフス、エキリの多く發生する季節が又參りました、殊にこれからは子供のエキリが多くなります、この豫防策としては冷菓子並に果實例へば櫻桃、バナナなどの食過ぎを防ぐことですから親御さんは特に御注意を願ひます』

住吉坑の落磐
死体收容作業進まず

既報、磐炭住吉坑第二斜坑の加藤光雄君（三六）外五名の落磐生埋め事件は十九日以來晝夜兼行の救助作業を續けてゐるが未だ死体が發掘されない 最初の發掘作業は七尺の現場まで一直線に人夫を動員して作業を續けたが砂斷層と出水の危險に脅かされ又落磐の危惧もある處から斷念、今度は更に坑道一ぱいの發掘作業に移つたので今の處死体收容は殆んど見當がつかない有樣である

三等局長會
陣容强化
郡で三部制執る

濱通り三等郵便局長會は改組され、石城郡下に三部制を置くことになり、第一部植田方部は二十一日總會を開き本年度遞信報國事務打合せ並に豫算を決定した 引續き今二十二日第二部湯本町、明二十三日第三部總會を平郵便局に開く

多摩拔錨
艦上點呼終了

海軍艦上簡閲點呼の爲め小名濱港に入港中の軍艦多摩は昨二十一日午後五時二十分拔錨小名濱港を離れた

女中、番頭
勤續者表彰

本縣旅館業大會は昨廿一日郡山市公會堂に開き時局に對應する宣言決議を可決、女中番頭さんの勤續者表彰式を行つた平地方關係次の如し

△平市　增淵きわ、菅野兼松、太田勝示、中村みか、青木ちよ、村山きみ、大田よの、小杉山與助、添田德次郎、柏原よし、樋渡たけ、藁谷よね・丸山すが、小川たか・馬場時子

△湯本町　莞長七、加納いく、田島はな・高橋けさ、稻田ひろ・若松貞太郎

△小名濱町　馬上きみ・尾崎政吉、菊地とし

縣立高女
校長會議

縣立高等女學校長會議は二十三、四兩日に亘つて磐城高女に開かれるが縣からは小池視學官が臨席する

四倉町
木村醫院
代醫森氏來院

四倉町木村醫院長木村守江氏は縣會を代表去る二十七日以來中支の第一線に鄉土部隊を慰問してゐるので留守中の代診として慶應大學病院勤務醫學士森良夫氏が來院して一般患者の診療を行なつてゐる 同氏は木村氏の留守中既に三四回代醫として同病院に勤務して四倉地方では相當知られてゐる

相野田部長
今廿二日來平

二十一日初巡視のため來平の豫定であつた相野田總務部長は都合で今二十二日に變更、午前十一時十分平驛着列車で來平した

縣稅協議
廿三、四兩日開く

石城稅務協議會は二十三、四兩日平署會議室に開き、縣からは相野田總務部長も臨席する筈で縣稅關係功勞者を表彰する

小揚繰
廿一日好漁

四倉濱の春職漁場は二十五日を以て職替し夏職となるが揚繰網漁船は近年に無き不漁を見て二三日前より船体を陸上してゐる 小揚繰船は尙出漁してゐるが昨二十一日は一艘で約七、八百圓の好漁を收めた

五校建設
廿四日委員會

平市第五校建設委員會は二十四日午前十時から市會議事堂に開き同校建設の促進について協議する

商況
（二十二日）

【野菜】	高	安
筍	一二〇	
玉葱	一七	一二
人參	四〇	
大根	三三	二五
ホレン草	四〇	二五
ニラ	一七〇	九〇
カブ	四五	二〇
キャベツ	四二	三八

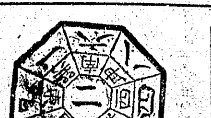
家庭
農繁期の榮養
能率增進に共同炊事奬勵
獻立表――平保健所

時局の關係から人手不足を叫ばれつつある、農村にもそんなことには遠慮なく苗代がぐん〴〵伸びて猫の手も借りたい多忙な田植時が間もなくやつて來る、

平保健所ではこの際人手不足が禍ひして增產を害してはと增產能率を上げる一方人不足を補ふ立場から農繁期の共同炊事を各部落に慫慂、敎化村渡邊村では昨年三班の實行組合が率先實施して好成績をあげたので今年は一躍十一班の實行組合が之を實施する事になり、去る八日から十六日迄榮養指導員成田君子女史の出張を求めて準備指導を受け、田植時の六月十日からは更らに同女史の實地指導を受けることになつてゐるまた赤井村高萩通落でも去る十九日成田榮養指導員の出張を求めて共同炊導の打合せ會を開き廿五名の婦人が集合した、この部落は六月廿一日から實地指導を受ける事になつてゐる

獻立表
（一週間分）

朝	晝	小晝食	夕
赤飯、胡摩鹽、味噌汁、漬物	切干、大根ノツボロ煮『切干大根、切昆布大豆油煮干粉	櫻飯握、キャベツ鹽モミ	鯖味噌煮、玉葱ノ卵トジ、キャベツ鹽モミ
味噌汁、キャベツ麩、酢ノ物	カレライス「豚肉人參馬鈴薯玉葱メリケン粉鹽カレ粉	豌豆飯ノ握り・漬物	味噌汁、竹輪、野菜炒り煮
味噌汁、卵味噌	サツマ汁、大根卸漬物	黑大豆入握り飯、澤庵	味噌汁、鰊野菜、炒り煮、大根オロシ
味噌汁、キャラズキャベツ鹽漬	筍ト昆布の煮込ミキャベツ酢物	筍握飯、キャベツ鹽モミ	小豆飯、胡摩鹽刺身、アラ汁、漬物
味噌汁、煮豆、漬物	鰹、切干煮付、紅葉卸、漬物	握り胡摩、黃粉まぶし	味噌汁、龍田揚、キャベツ付合
味噌汁、練味噌、漬物	混ぜ飯、清汁、漬物	砂糖餅	漬汁、蕗油揚煮メ蕗葉佃煮
味噌汁、生姜煮漬物	煮付、味噌汁、漬物	小豆握り飯、胡摩鹽	味噌汁、刺身キャベツ、莢豌豆、油炒り、大根卸



金曜　辛未　先勝　滿　亢宿

舊四月廿八日
新五月廿三日

▲一白　路傍の花は手折られ易し人目に立ぬが安全
▲二黑　考へ深きは手遲れありとも急がぬがよろし
▲三碧　剛慢は人に遠ざけらる温順に萬事を盡せ吉
▲四綠　人の世話事にて迷惑を蒙る日緣組懸合は凶
▲五黃　窮地に入れども狼狽せず愼重なれば難去る
▲六白　人和はあれども地の利を得ず十分の望なし
▲七赤　活氣盛にして難事も通達するの勢ある吉日
▲八白　物事變調を來さんとす定業を堅く守り安全
▲九紫　運氣上乘にて畫策する所有利に展開すべし

映畫界

世界館　◎新興映畫羅門光三郎、高山廣子主演「明け行く土」◎新興映畫山口勇黑田記代主演「子寶」◎大都映畫杉山昌三九、水川八重子主演「十一人の顏」◎文化映畫◎日本ニユース

天氣豫報
（二十二日）

今晚　南東の風曇り後小模樣
明日　南東の風小雨が降つたりやんだり

滿潮　前二、〇〇　後三、三〇
干潮　前九、一五　後八、三三

平市慶弔錄

【出生】平市字二丁目二十二番地大友榮二女れい子さん【死亡】平市字新川町三十一番地佐藤文平（三）さん【死亡】平市字南町三十六番地小川猷三郎（一）

軟式野球
3―3の好戰

平市役所對平製作所の野球試合は昨二十一日午後五時から平工校庭で開き三對三で引分けの好戰であつた

漁業用
竹織ロープの出現

漁業用『竹織ロープ』の販賣を開始する事になりました。本品は竹の纖維で製造し長期間海水中にあるも絕對腐蝕せず却て强靱性を增加し强度並に耐久力は『マニラロープ』の數倍にて生産の約七割は陸海軍の御用品として亦各地で盛に使用され當町某船主樣より大量の御注文に接し近く納入する事になつて居ります。是非御用命仰付け下され度御願ひ申します

漁業用竹織ロープ特約店
東北地方一手販賣
丹野純一郎商店
小名濱町上横町二四

文選女工　見習　募集
高卒程度
年齡十五、六才
【希望者ハ本人來社アレ】
磐城毎日新聞社